

協運社

# 安全・安心・低コストを提供

## 「明るく、真面目に」備車道究める

【千葉 協運社（山崎隆）「備車に徹する方針の下、利社長、千葉県市川市は、「安全・安心・低コストな輸

送サービスを元請物流会社に提供していく。実運送会社として利益を確保していくため、ローコストオペレーションを徹底的に追求。厳しい環境でも「明るく、真面目（まじめ）に」がモットーで、コンプライアンス

（法令順守）も含めて安心して仕事を任せられる備車道究める考えた。

1963年に東京・深川で創業。木材販売会社の運送部門として独立し、当初は木材輸送がメインだった。後に大手宅配会社の集配業務を手掛けるようになり、車両も50両近くまで増車。しかし一時期、同宅配会社の仕事がなくなり、車両やドライバーを縮小せざるを得なくなった。その反省から「一つの荷主の売り上げ比率を大きくせず、リスクを分散させる（山崎利明常務）方向性に転じた。



「コツコツやっていることがすべて」と山崎常務（左）と西内取締役

現在、車両は20両。大手物流会社の委託によるオフィス家具の搬入・組み立てから廃材回収までのトータルサービス、食品物流会社

を元請けとする冷凍輸送に加え、大手宅配会社の集配業務も復活し、事業の3本柱を確立した。「荷主の業種ごとに車両の仕様が異なり、車両の効率的運用は難しいが、経験を積んだドライバーがそれぞれの業務に従事することで長い取引につながっている」

「中小運送会社の営業力は大手にはかなわない」と備車に徹する道を選んだが、運賃の利幅がどうしても薄くなってしまったため、徹底的なコスト削減により利益を捻出（ねんしゅつ）しなければ生き残れない。売り上げの源泉であるドライバーの人員費は削れないため、総務、経理、人事などを山崎常務と西内第一取締役部長の2人で分担する体制に変更し、間接部門の人員費をゼロにした。

山崎常務によると「改めて経理の勉強するのは大変だが、中小企業は1人3役くらいならなくては周りと勝負できない」。今が一番厳しい時期という認識で不安も感じているが「明るく真面目にコツコツやっていることがすべて。幸いにして、先輩ドライバーが長年培ったノウハウと安全第一の精神を会社と後輩ドライバーに引き継いでいく社風があり、それを守っていきたい」。

同社が力を入れているのが、ドライバー教育。担当する西内氏は「運転や積み込み、荷下ろしの方法、お客さまへの対応の心得を教え、トラブル、クレームが起きないよう先手を打っている」。最も重視するのは、帰庫後のドライバーとのコミュニケーション。「堅苦しい雰囲気せず、同じ業務のドライバーのグループごとに各自が発言できるような心掛けをしている」

実運送会社の宿命として、山崎常務は「事業に係るリスクが大きいにもかかわらず、利益率は高くない」ことを挙げる。しかし「元請物流会社が自社車両では力発揮できない輸送を担う備車の存在意義は高くない」。大手元請物流会社はコンプライアンスに厳格で、当然、運送を委託される当社も相応の体制が求められると一流の備車の在り方を模索している。

（石井 麻里）